

平成 28 年度 事務事業評価シート 【 事後評価 】

※色付きのセルのみ入力してください。また、行・列の挿入や削除は絶対に行わないでください。

会計	款	項	目	事業コード	事業名	
一般	08	05	01	184340	生活再建住宅支援事業	
総合計画	分野	暮らし				
	政策	2-3	防災危機管理体制の充実			
	施策	1	危機管理体制の強化			
目的	東日本大震災で被災した住宅及び宅地の復旧復興のため支援を行う。					
対象	東日本大震災により居住する住宅及び宅地が被災された住民。					
意図	被災者の生活再建と早期の復興の支援ができる。					
事業概要 …上記目的を実現するための事業手法を記載すること						
<p>○災害復興住宅融資利子補給 新築又は補修等に係る融資の利子の一部を補助。二重ローン対策として既往住宅債務に対する利子の一部を補助。</p> <p>○被災者住宅補修等支援補助 半壊や一部損壊となった住宅の補修・改修の一部を補助。新築・購入する住宅のバリアフリー化等の費用の一部を補助。</p> <p>○被災宅地復旧支援補助 被害を受けた宅地の復旧工事の一部を補助。</p> <p>○被災者住宅再建支援補助 被災世帯の住宅の建設・購入に対する補助。</p>						
市民参画の有無 [対象外]						
市民協働の形態		共催	実行委員会・協議会	事業協力・協定		
		後援・協賛	補助・助成	委託		
活動指標（上記「事業概要」に対応）		単位	区分	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(計画)
①	被災住宅・宅地の復旧・再建世帯数	件	計画	226	256	
			実績	179	168	
②			計画			
			実績			
③			計画			
			実績			
成果指標（上記「意図」に対応）		単位	区分	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(計画)
①	被災住宅・宅地の復旧・再建世帯数	件	目標	226	256	
			実績	179	168	
②			目標			
			実績			
③			目標			
			実績			
成果指標の達成度	目標値より高い		概ね目標値どおり	<input type="radio"/> 目標値より低い		

成果指標の達成度の要因分析 (新規事業及び成果指標を変更した場合は、その成果指標を設定した考え方、目標値の根拠を記載)		
制度について周知活動を行っているが、制度を認知していない市民がいるため目標値に達しなかった。又、申請は行ったが期間内完成出来ずに取り下げる方、更に、被災しているが個々の諸事情により申請できなかった被災者もいるため、結果目標値を下回った。		
目的妥当性	公共関与の妥当性	東日本大震災により被災した住宅の早期復興を資するためには、公共関与が必要である。
	<input type="radio"/> 妥当である	
	見直し余地がある <input type="radio"/> 妥当でない	
有効性	成果の向上余地	制度開始から5年が経過し、毎年広報活動を行っているため市民に本事業が浸透していると思われるが、引き続き広報活動を行い制度周知に努める。
	<input type="radio"/> 向上余地がある	
	向上余地がない	
効率性	事業費・人件費の削減余地	国県市が一体となった一大事業として早期復興に取り組んでおり、被災者を支援しなければならないことから事業費・人件費とも削減余地がない。
	事業費の削減余地がある	
	人件費の削減余地がある <input type="radio"/> どちらも削減余地がない	
公平性	受益と負担の適正化余地	申請者はそれ相応の負担しており、負担を軽減させるための支援制度であるため適正である。
	受益機会の見直し余地がある	
	費用負担の見直し余地がある <input type="radio"/> 適正である	
総合評価 …上記評価結果の総括		
被災者の生活再建を図るため、支援補助制度について広報活動を行い、住宅及び宅地の早期復興に取り組んだ結果、目標値は下回ったが制度利用により復興した住宅や宅地が増加した。今後とも引き続き広報活動を行い更なる支援を行ってきたい。		

平成 28 年度 事業説明資料 【 事後評価 】

※色付きのセルのみ入力してください。また、行・列の挿入や削除は絶対に行わないでください。

会計	款	項	目	事業J-ト	事業名
一般	08	05	01	184340	生活再建住宅支援事業

単位：千円

		27年度 決算額(A)	28年度 決算額(B)	29年度 現計予算額	決算額前年比 (B-A)
事業費		63,534	51,845		△ 11,689
財源内訳	国・県	60,362	50,593		△ 9,769
	地方債				
	その他				
	一般財源	3,172	1,252		△ 1,920

事業期間	単年度繰返	〇	期間限定	[平成 23 年度 ~ 平成 35 年度]
------	-------	---	------	-----------------------

部重点施策における目標

安全・安心で快適な生活基盤の充実に努める。

事業開始の背景・経緯

東日本大震災で地震や津波により被災した住宅・宅地及び自宅を失われた被災世帯の早期復興を支援する。

事業概要

○災害復興住宅融資利子補給
新築又は補修等に係る融資の利子の一部を補助。二重ローン対策として既往住宅債務に対する利子の一部を補助。
○被災者住宅補修等支援補助
半壊や一部損壊となった住宅の補修・改修の一部を補助。新築・購入する住宅のバリアフリー化等の費用の一部を補助。
○被災宅地復旧支援補助
被害を受けた宅地の復旧工事の一部を補助。
○被災者住宅再建支援補助
被災世帯の住宅の建設・購入に対する補助。

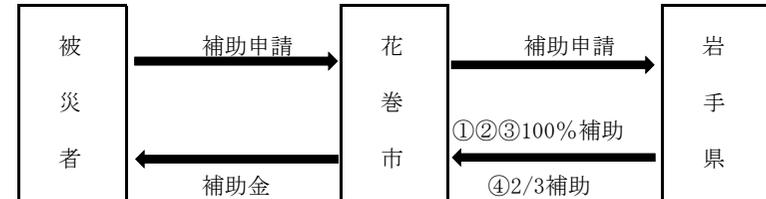
事業を展開する上での課題、留意事項 / 意見・要望等

引き続き、被災者への早期の生活再建と復興への事業の周知徹底を進めていく。

担当部署 部名 建設部 課名 建築住宅課 担当係長 筑後 貴之 内線 549

(単位：千円)

《事業手法の詳細》…概略図による事業手法の詳細と事業費の内訳を記載すること。
【適宜、セルは結合して構わないが、結合した1つのセル内は1文章程度にとどめること。】



①災害復興住宅利子補給 1,614千円

新築・補修等に係る利子、二重ローン対策として既往住宅債務に対する利子を補助(5年間)
(新築) 1,137千円 (補修) 477千円 (既往債務) 0千円
(新築) 11件 (補修) 17件 (既往債務) 0件

②被災住宅補修等支援補助 43,905千円

被災住宅の補修・改修、新築・購入住宅のバリアフリー化・県産材使用に対する補助
・補修・改修 [補助率1/2 限度額：補修300、耐震、BF改修600、県産材改修200]
・新築バリアフリー [床面積に応じて400、600、900の定額補助]
・新築県産材 [使用量に応じて200、300、400の定額補助]
(補修) 15,483千円 (改修) 28,022千円 (新BF) 400千円 (新県産) 0千円
(補修) 71件 (改修) 57件 (新BF) 1件 (新県産) 0件

③被災宅地復旧支援補助 2,576千円

被害を受けた宅地の復旧工事に対する補助 [補助率1/2 限度額2,000]
(3件 2,576千円)

④被災者住宅再建支援補助 3,750千円

東日本大震災により被災した世帯に対して市内での「持ち家」による住宅再建を支援する
◆対象者・・・次の2つの要件を満たすもの
① 岩手県内において居住する住宅が全壊または半壊して、被災者生活支援金の基礎支援金を受給
② 県内に自宅を建設又は購入して被災者生活支援金の加算支援金(建設・購入)を受給
◆補助額(世帯あたり)
複数世帯 1,000千円(市334千円、県666千円)
単数世帯 750千円(市250千円、県500千円)
◆実施期間
平成24年度～平成30年度(7年間) ※適及可
◆補助金
複数世帯 1,000千円×3世帯=3,000千円
単数世帯 750千円×1世帯=750千円